

国際社会入門

2. 地元と世界——なぜ小学校の頃の友達と話が合わなくなるのか

富永京子
nomikaishiyouze@gmail.com
Kyokotominaga.com

よろしくお願いします

担当教員の連絡先は以下のとおりです。

Email: kyokotom@fc.ritsumeai.ac.jp

Line: Kyoko Tominaga (ID:nomikaishiyouze)

研究室：修学館332号室（月、水、木）

K.Tominaga

授業を聞くにあたって

- この授業では、レジュメ・プレゼン資料の配布を行いません。
- 一人一人にとって重要だと感じられる概念も違いますし、生活と結び付けやすいものとそうでないものもあると思います。ぜひ、**自分にとって重要だと思う概念**だけをメモするなり、写真に撮るなりして、持ってきてください。

K.Tominaga

おすすめの復習の仕方

- 今日学んだ概念（言葉）を用いてSNSに書いたり、身近な人と話したりするのがおすすめ

K.Tominaga

授業前の下準備に

- 富永のウェブサイト-「国際社会入門」のページより、毎週**月曜日**に簡単な課題が提示されます。それについて少し考えてきてください。

（本当に簡単なので、授業前の休み時間などでOK）

- URL : kyokotominaga.com

パスワードは「ritsumeai」

K.Tominaga

前回の授業から

- いろいろおもしろいご意見をいただき、ありがとうございました。授業前に紹介します。
- それに付け加えて、国際社会トリビアや重要な概念も紹介します。あなたの世界を見る目が少し変わるかも.....？

K.Tominaga

リサとガスパール

K.Tominaga

リサとガスパール

リサとガスパール (Gaspard et Lisa)

- Anne GutmanとGeorg Hallenslebenによる絵本
- ウサギとかイヌのような動物が、世界中を飛び回る物語



K.Tominaga

「リサとガスパール にほんへいく」



- 「フクシマさん」という日本人男性の先導のもと、リサとガスパールが日本の町（京都？）を練り歩く！
- ウォッシュレット、弁当、寿司、詩仙堂、五重塔.....
- フクシマさんのビジュアルにご注目ください。

K.Tominaga

フクシマさん



- 眼鏡、シャツ、スラックス、カメラを携えた「典型的な日本人男性」
- いわゆる「典型的な日本人」
 - 観光先で写真を撮りまくる
 - シャツとスラックスで仕事に行く
 - 勤勉な人々

社会学では、こうした「典型的なイメージ（固定観念）」による類型化を**ステレオタイプ** (Stereo Type) と呼ぶ

K.Tominaga

ステレオタイプと国際社会

ステレオタイプは、ものすごく国際社会のなかで問題視されている

K.Tominaga

エールフランスの広告。何が悪い？



K.Tominaga

ステレオタイプと国際社会

ステレオタイプ

→ 固有の属性を持つ集団（民族、居住地、性別、世代）の特徴を強調して理解・伝達すること

例：大阪府の人＝おもしろい
沖縄県の人＝おおらかだ

→ 特定の集団に対する蔑視・差別に繋がる

K.Tominaga

ポリティカル・コレクトネス

ポリティカル・コレクトネス(Political Collectness)

→ 特定の集団を差別的に描かないような配慮がなされている（政治的に正しい）状態。

→ エールフランスのCMは、ポリティカル・コレクトネスに反するとして非難を浴びた。

K.Tominaga

「国際社会に追いついていない」

K.Tominaga

ポリティカル・コレクトネス

ポリティカル・コレクトネス(Political Collectness)

→ 民族や国籍だけでなく、性別・居住地・職業など、さまざまな属性に適用される

→ 日本におけるPCへの配慮はすすんでいるのか

K.Tominaga

国際社会に「文化的に追いつく」

「ヘイト・スピーチ規制法」

特定の属性（自分で変えられない要素）への差別的な言動や表現を禁じる法律

→ 日本では法整備がなされていない
近年、在日朝鮮・中国人への差別が大きくなっているのを機に、整備への動きが進んでいる

K.Tominaga

国際社会と文化の関係

- 自分の身の回りで、ポリティカル・コレクトネスに配慮している／配慮していないドラマや映画、宣伝広告、身の回りの人の言動などを、あとでレポートに書いてみましょう。

K.Tominaga

なにが「国際的」か？

K.Tominaga

「国際的」であるということ

- 難しい問い
 - 「国際的」「国際社会」とは何なのか
 - 少なくとも、この文脈で言うなら、「異文化に寛容であること」「多様性に寛容であること」
- 異文化や多様性に寛容であることは本当にいいことなのか？という問いも生まれてくるけど、続きはまた今度

K.Tominaga

今回のアサインメント

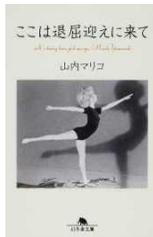
「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」



K.Tominaga

今回のアサインメント

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」



K.Tominaga

今回のアサインメント

「ここは退屈迎えに来て」の主人公は、東京から大阪に移住してきた女子大生。彼女は、大阪の生活に慣れず、地元の友達と話が合わなくなることに悩んでいる。この小説は、異文化や多様性に寛容であることの重要性を説いている。主人公は、大阪の生活に慣れず、地元の友達と話が合わなくなることに悩んでいる。この小説は、異文化や多様性に寛容であることの重要性を説いている。

K.Tominaga

今回のアサインメント

「ここは退屈迎えに来て」の主人公は、東京から大阪に移住してきた女子大生。彼女は、大阪の生活に慣れず、地元の友達と話が合わなくなることに悩んでいる。この小説は、異文化や多様性に寛容であることの重要性を説いている。主人公は、大阪の生活に慣れず、地元の友達と話が合わなくなることに悩んでいる。この小説は、異文化や多様性に寛容であることの重要性を説いている。

K.Tominaga

なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか

「主人公」...地元の高校を卒業後、東京で10年過ごす。未婚。フリーライター。実家暮らし。

「サツキちゃん」...地元の高校を卒業後、県内の短大へ。未婚。

→「高三のころの親友」にもかかわらず「音信不通」で「開ききった距離」を感じている。

K.Tominaga

分かり合える？分かり合えない？

K.Tominaga

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」

キャリアの変化と「グローバル化」の関係
 グローバル化=人・もの・情報が国境を越えて移動すること。その移動量が増えること。

→ 国内にいる私たちのコミュニケーションに影響があるのか？

K.Tominaga

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」

グローバル化することによって：

通信・移動が容易になる

→ 交通システムの拡充（鉄道、船舶、飛行機、高速道路、高速鉄道.....）

→ 通信システムの発達（手紙、電話、Eメール、SMS、SNS.....）

国内も含む広範囲の移動、多様な情報（価値観）にアクセスできる

K.Tominaga

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」

キャリアの多様化：

→ 職業・進路選択の多様化、働き方のスタイルの個別化（働く場所の分散、働く時間のフレックス化）

⇒ 「いま」「ここ」にいること、同じ性別であること、かつて同じ価値観を有していたことが、価値観が同じであることを保証しない

K.Tominaga

友達とずっと友達にいるにはどうすればいいか

キャリアの変化と「グローバル化」：

→ たとえ継続的に時間と空間を共有していたとしても、価値観を共有することまでは不可能

⇒ 「ずっと同じように」友達にいることは難しい時代

K.Tominaga

家族のことをどれくらい知ってる？

こうした「個人化」は、友達同士や同僚同士だけでなく、家族にも起こりうる

- 人との出会いが広範になり、結婚相手が選択可能になることによって、違う地域、職業、出自.....の人と家庭を作ることが可能になる
- 家庭の中ですら、わかりあえないことがある

K.Tominaga

個人化のリスク

これまでは出自をともにしていることが、同じ生き方をすることを想定されていた

- しかし、通信交通手段の発達で、場所を共にしながら違うことをしたり、同じ年代であっても異なる経験をするのはめずらしくない
- ⇒ 私たちは、わかりあえず、なにか危機があった際、その危機について理解されないという**リスク**を負っている

K.Tominaga

いま・ここを共有していたとしても

「コマさん」シリーズ (2014)



アニメ『妖怪ウォッチ』のワンコーナー。田舎から出てきた妖怪「コマさん」が都会に出てきて、都会の事物（ファストフード、ICカード式改札機、大規模建造物）に驚くさまをコミカルに描いている。

- 「コマさん」(兄)と「コマじろう」(弟)の差異に注目!

K.Tominaga

すでに場所の問題ではない

地方から都会に出てきたコマ兄弟

- しかし、動機が違う
 - 弟「田舎暮らしはどーもはだにあわねえからあ」兄「田舎、合わないズラか...」(ちなみに、兄は田舎からの引越しを余儀なくされている)
- 通信の手法も違う
 - スマホを持ち、「電波のある場所」を探す弟と、おそらくモバイル通信機器を持っていない兄

K.Tominaga

すでに場所の問題ではない

地方から都会に出てきたコマ兄弟

- 人間関係も違う
 - 弟の友達「西麻布」で遊ぶような人々。兄は、それを見て驚いていることから、そうした人々との付き合いはない模様
- 操る言語も違う
 - 兄はもといたところの方言を操っているが、弟は標準語も話すことができる(話す相手に合わせて、言語を変えることができる)

K.Tominaga

「コマさん」の元ネタ

「男はつらいよ」シリーズ (1969-1995)



テキ屋稼業を営む「寅さん」が、何かの拍子に故郷の葛飾柴又に戻ってきて大騒動を起こす人情喜劇シリーズ。主なキャラクターとして妹・さくら、博、おいちゃん、おばちゃん(叔父・叔母)。

- 帰る場所としての家・理解者としての家族、わかりあえない存在としてのマドンナ(異性)たち

K.Tominaga

「寅さん」と「コマさん」

- 異質な経歴であっても理解者である「家族」と生きる「寅さん」
- 同様に生きてきたはずだった家族が異質になっていく「コマさん」
 - 同じく“相互理解”を描くものであっても、スタート地点が大きく異なる
 - ⇒ 家族が個人化していない寅さん、家族が個人化しているコマさん

K.Tominaga

個人化のリスク

- それまで分かり合える人々が、分かり合えないという事態
- 家族・地域コミュニティ・企業・学校といった集団をめぐる前提が変容しつつある
 - ⇒ グローバル化は、多様化でもあるが、多様化は同時に個人化・孤立を引き起こす

K.Tominaga

今日のまとめ

- 【今週の出席がわりに】
- お配りしたレポートを書いてご退席下さい。

K.Tominaga